

《計画表》

事業名	防災意識啓発の発信及び防災学習ツアー等の受入拠点施設
概念	災害の教訓や防災を学ぶ交流拠点づくり
中長期将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・質の高い避難誘導体制が確立されている安全性の高い施設。 ・利用者が施設の役割を学ぶことのできる防災学習施設。 ・職員、または事務所に防災ガイドとの連携役としてコーディネーターが5人以上いる。 ・防災学習に向けた情報収集、整理がなされ職員等で共有化が図られ、ツアーメニューを提供できる。
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> ・質の高い避難マニュアルの完成（より現実性のある避難マニュアル） ・施設の役割の認知度80%以上（毎年行うアンケート調査で評価） ・おおふなぼーと発信の防災学習：展示15回、イベント・訓練5回、ほか防災・減災学習受入等（随時） ・ひととおり防災ガイドができる職員の人数：5人
ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> ・おおふなぼーと従事者 ・施設利用者及び市民 ・震災学習旅行者及び観光客

		非常配備体制の確立	防災意識啓発	情報発信手法の確立	伝承活動	遺構・伝承施設間連携		防災学習受入体制整備
【STEP1】	いつから	R3.4月	R3.6月	R3.4月	R3.4月	R3.4月	R3.4月	防災学習ネットワークの開始（R4.3.1）
	だれが	職員	職員、おはなしころりん	職員、おはなしころりん	職員、おはなしころりん	職員	職員、コーディネーター	職員
	何を	指定管理者版津波避難誘導マニュアル作成～職員への周知徹底	防災訓練実施（周辺施設、市民、施設利用者等の巻き込み）	施設内への貼紙及びホームページ等による役割等の情報発信（更新頻度を高める）	防災に係る展示（津波被災状況写真展、震災・復興・防災に関する書籍の供覧）及び防災・減災学習の受入	各施設の情報収集（研修を兼ねる）及び連絡網等の作成	防災学習ツアーの広域連携（つなみメモリアル等）	現地視察・確認等の職員研修の実施（津波伝承館、椿の里・大船渡ガイドの会等との連携）
	いつまで	防災訓練まで（R3.6月）	R5	R5	R5	防災学習ネットワークの開始（R4.3.1）	R7	R5
	どうなる	津波発生時または発生する恐れのある場合に、非常配備体制（高台避難場所に避難誘導する体制）が確立される。	施設の役割の周知が図られ、職員がマニュアルに沿った安全な避難誘導等の対応が身についている。	施設の役割の周知が図られ、利用者の防災意識が高まりつつある。	利用者の防災意識の向上と併せ、風化の防止が図られる。	利用者に対する受入体制が構築され、防災学習ツアーの受入基盤整備が図られる。	防災学習において、広域の受入体制が構築される。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災学習施設等の情報整理がなされている。 ・職員、または事務所に防災ガイドとの連携役としてのコーディネーターが2人以上いる。
	到達点（中間）	マニュアル（初版）の完成	アンケート調査による施設の役割認知度80%以上	アンケート調査による施設の役割認知度80%以上	展示年15回、イベント年4回 訓練年1回以上実施	各施設の情報資料完了及び防災学習ツアー等受入整備完了	-	2人以上のコーディネーター確立
評価者	市、職員、おはなしころりん	アンケート回答者（施設利用者）	アンケート回答者（施設利用者）	回数判断	市、職員	-	職員	
【STEP2】	だれが	防災意識啓発に統合	職員、おはなしころりん	職員、おはなしころりん	職員、おはなしころりん	/	職員	
	何を		PDCAサイクル（随時）マニュアルの見直し等	PDCAサイクル（随時）	PDCAサイクル（随時）		防災学習ツアーに係る各コンテンツの見直し及びブラッシュアップ	
	いつまで		R7				R7	
	どうなる		<ul style="list-style-type: none"> ・より安全性の高い避難マニュアルが作成され、全職員が質の高い避難誘導等の対応が身についている。 ・多くの人を巻き込むことによって、施設の役割が広く理解され、防災意識の向上が図られている。 	市民をはじめ、より多くの人に施設の役割が浸透し、防災意識の向上が図られている。	施設が防災を学ぶ場所と認識されるとともに、定期的な展示やイベント・訓練の実施により、利用者の防災意識の向上と併せ、風化の防止が図られる。		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が希望するテーマに沿った施設の紹介や道案内が適切に行われている。 ・職員、または事務所に防災ガイドとの連携役としてコーディネーターが5人以上いる。 	
	到達点							
評価者								

《ロードマップ》

防災意識啓発の発信及び防災学習ツアー等の池入れ拠点施設		R3				R4				R5				R6				R7				到達点
施策	だれがやるか	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
非常配備体制の確立	職員																					<p>【中間】 R3.6</p> <ul style="list-style-type: none"> 津波発生時または発生する恐れのある場合に、非常配備体制（高台避難場所に避難誘導する体制）が確立される。 <p>【最終】 R7</p> <p>「防災意識啓発」に統合</p>
防災意識啓発	職員 おはなしころりん																					<p>【中間】 R5</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の役割の周知が図られ、職員がマニュアルに沿った安全な避難誘導等の対応が身についている。 <p>【最終】 R7</p> <ul style="list-style-type: none"> より安全性の高い避難マニュアルが作成され、全職員が質の高い避難誘導等の対応が身についている。 多くの人を巻き込むことによって、施設の役割が広く理解され、防災意識の向上が図られている。
情報発信手法の確立	職員 おはなしころりん																					<p>【中間】 R5</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の役割の周知が図られ、利用者の防災意識が高まりつつある。 <p>【最終】 継続</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民をはじめ、より多くの人に施設の役割が浸透し、防災意識の向上が図られている。
伝承活動	職員 おはなしころりん																					<p>【中間】 R5</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者の防災意識の向上と併せ、風化の防止が図られる。 <p>【最終】 継続</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設が防災を学ぶ場所と認識されるとともに、定期的な展示やイベント・訓練の実施により、利用者の防災意識の向上と併せ、風化の防止が図られる。
遺構・伝承施設間連携	職員																					<p>【最終】 R4.3.1</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者に対する受入体制が構築され、防災学習ツアーの受入基盤整備が図られる。 <p>【最終】 R7</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災学習において、広域の受入態勢が構築される。
防災学習受入体制整備	職員																					<p>【中間】 R5</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災学習施設等の情報整理がなされている。 職員、または事務所に防災ガイドとの連携役としてのコーディネーターが2人以上いる。 <p>【最終】 R7</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者が希望するテーマに沿った施設の紹介や道案内が適切に行われている。 職員、または事務所に防災ガイドとの連携役としてコーディネーターが5人以上いる。

《達成状況》

防災意識啓発の発信及び防災学習ツアー等の池入れ拠点施設		R4	R5	R6	R7	到達点
施策	だれがやるか					
非常配備体制の確立						<p>【中間】 R3.6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波発生時または発生する恐れのある場合に、非常配備体制（高台避難場所に避難誘導する体制）が確立される。 <p>【最終】 R7</p> <p>「防災意識啓発」に統合</p>
防災意識啓発	職員 おはなしころりん	避難マニュアル(初版)の作成及びそれに基づいた避難訓練の実施	避難マニュアル(初版)の作成及びそれに基づいた避難訓練の継続			<p>【中間】 R5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の役割の周知が図られ、職員がマニュアルに沿った安全な避難誘導等の対応が身についている。 <p>【最終】 R7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より安全性の高い避難マニュアルが作成され、全職員が質の高い避難誘導等の対応が身についている。 ・多くの人を巻き込むことによって、施設の役割が広く理解され、防災意識の向上が図られている。
情報発信手法の確立	職員 おはなしころりん	施設内への貼紙及びホームページへの役割等の情報掲載	施設内への貼紙及びホームページへの役割等の情報掲載を継続			<p>【中間】 R5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の役割の周知が図られ、利用者の防災意識が高まりつつある。 <p>【最終】 継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民をはじめ、より多くの人に施設の役割が浸透し、防災意識の向上が図られている。
伝承活動	職員 おはなしころりん	防災ウィークの実施(3月) おはなしころりん、津波伝承館による防災展示の実施(適宜)	おはなしころりん、津波伝承館による防災展示の実施(適宜) 防災ウィークの実施(3月予定)			<p>【中間】 R5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の防災意識の向上と併せ、風化の防止が図られる。 <p>【最終】 継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設が防災を学ぶ場所と認識されるとともに、定期的な展示やイベント・訓練の実施により、利用者の防災意識の向上と併せ、風化の防止が図られる。
遺構・伝承施設間連携	職員	各施設の情報資料設置 防災学習ツアー等受入	東日本大震災津波伝承館等、各施設の情報資料設置及び防災学習ツアー等受入の継続			<p>【最終】 R4.3.1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者に対する受入体制が構築され、防災学習ツアーの受入基盤整備が図られる。 <p>【最終】 R7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災学習において、広域の受入態勢が構築される。
防災学習受入体制整備	職員	防災ウィーク等、職員の現地視察及び確認	防災ウィーク等、職員の現地視察及び確認(3月予定)			<p>【中間】 R5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災学習施設等の情報整理がなされている。 ・職員、または事務所に防災ガイドとの連携役としてのコーディネーターが2人以上いる。 <p>【最終】 R7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が希望するテーマに沿った施設の紹介や道案内が適切に行われている。 ・職員、または事務所に防災ガイドとの連携役としてコーディネーターが5人以上いる。

《計画表》

事業名	観光情報発信及びまちあるき
概念	大船渡の魅力・文化を伝える観光拠点づくり
中長期将来像	<p>「観光情報の発信施設」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の防災・観光・交流機能の位置や役割が広く認知され、観光案内所として認識できる状態となる。 ・各種サイトに観光案内所として掲載されている。 ・協会HPやSNSと連動し、大船渡駅周辺を中心に、市内の観光情報を網羅しているサイトとして確立されている。 <p>「まちあるきの拠点案内施設」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者の企画によるおおふなぼーとを起点とした「まちあるきコース」が確立され、まちの賑わい創出に寄与している。
実施目標	・観光案内所として視認できる（看板・装飾を完了している）
ターゲット	観光客及び市民

		視認性の向上	情報発信手段の確立	周辺施設との連携	マチナカ観光の造成		
【STEP1】	いつから	R3.4月	R3.4月	R3.4月	R3.4月		
	だれが	職員	職員	職員、おはなしころりん	職員		
	何を	レイアウトの変更及び装飾 ※定期的に見直し	ポスター及びパンフレット 掲示、HP、SNS等の活用	チラシの掲示 HP、SNS等の活用	まちあるきツアー及びルート造成 ～実施～ブラッシュアップ ※実施ごとに見直し		
	いつまで	R5	R7	R7	R7		
	どうなる	観光案内所としてのデザインが完了し、認知度も向上し、観光客及び旅行会社等から案内所として認識される。	・施設の機能の役割が広く発信され、おおふなぼーとに來れば大船渡の観光・物産情報が網羅できると認識される。 ・多くの情報発信により、各種サイト等への情報掲載が多くなる。	・協会HP・SNSと連動し、おおふなぼーと及びHP内で駅周辺をはじめ、市内のイベント情報が網羅できると認識される。 ・施設の観光・交流機能の位置や役割が広く認知される。	・大船渡駅周辺地区の賑わい創出とまちあるき拠点の案内施設として確立されている。 ・独自のまちあるき企画として年2回実施するとともに、所要時間に合わせたコース造成が確立されている。		
	到達点	アンケート調査による認知度及び満足度80%以上	アンケート調査による施設の役割周知度80%以上	アンケート調査による施設の役割周知度80%以上	アンケート調査による施設の役割周知度80%以上		
	評価者	アンケート回答者（施設利用者）	アンケート回答者（施設利用者）	アンケート回答者（施設利用者）	アンケート回答者（施設利用者）		
【STEP2】	だれが						
	何を						
	いつまで						
	どうなる						
	到達点						
	評価者						

《ロードマップ》

観光情報の発信施設及びまちあるきの拠点案内施設		R3				R4				R5				R6				R7				到達点
施策	だれがやるか	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
視認性の向上	職員	レイアウトの変更及び装飾												PDCAサイクル（随時） デザインの見直し等				<p>【中間】 R5</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光案内所としてのデザインが完了し、認知度も向上し、観光客及び旅行会社等から案内所として認識される。 <p>⇒達成後、PDCAサイクル</p>				
情報発信手法の確立	職員	ポスター及びパンフレット掲示、HP、SNS等の活用																				<p>【最終】 R7</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の機能の役割が広く発信され、おおふなぼーとに来れば大船渡の観光・物産情報が網羅できると認識される。 多くの情報発信により、各種サイト等への情報掲載が多くなる。
周辺施設との連携	職員 おはなしころりん	チラシの掲示、HP、SNS等の活用																				<p>【最終】 R7</p> <ul style="list-style-type: none"> 協会HP・SNSと連動し、おおふなぼーと及びHP内で駅周辺をはじめ、市内のイベント情報が網羅できると認識される。 施設の観光・交流機能の位置や役割が広く認知される。
マチナカ観光の造成	職員	まちあるきツアー及びルート造成～実施（年2回） ※実施毎に見直し																				<p>【最終】 R7</p> <ul style="list-style-type: none"> 大船渡駅周辺地区の賑わい創出とまちあるき拠点の案内施設として確立されている。 独自のまちあるき企画として年2回実施するとともに、所要時間に合わせたコース造成が確立されている。

《達成状況》

観光情報の発信施設及びまちあるきの拠点案内施設		R4	R5	R6	R7	到達点
施策	だれがやるか					
視認性の向上	職員	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼーと屋外へのぼり旗設置 ・エントランスホールのレイアウト変更 ・カウンターへの職員配置 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼーと南側ガラス面への観光タペストリーの設置 ・カウンター職員配置の継続 			<p>【中間】 R5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光案内所としてのデザインが完了し、認知度も向上し、観光客及び旅行会社等から案内所として認識される。 <p>⇒達成後、PDCAサイクル</p>
情報発信手法の確立	職員	HP、SNS等を活用した施設の役割、イベント情報発信	HP、SNS等を活用した施設の役割、イベント情報発信の継続			<p>【最終】 R7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の機能の役割が広く発信され、おおふなぼーとに來れば大船渡の観光・物産情報が網羅できると認識される。 ・多くの情報発信により、各種サイト等への情報掲載が多くなる。
周辺施設との連携	職員 おはなしころりん	イベントチラシの相互配架 イベントへの人員協力、 HP、SNS等を活用した情報発信	イベントチラシの相互配架 及びイベントへの協力、 HP、SNS等を活用した情報発信の継続			<p>【最終】 R7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協会HP・SNSと連動し、おおふなぼーと及びHP内で駅周辺をはじめ、市内のイベント情報が網羅できると認識される。 ・施設の観光・交流機能の位置や役割が広く認知される。
マチナカ観光の造成	職員	防災ウィーク内の防災×観光アドベンチャーゲームの実施	教育旅行会社への防災×観光アドベンチャーゲームの紹介及び対応			<p>【最終】 R7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大船渡駅周辺地区の賑わい創出とまちあるき拠点の案内施設として確立されている。 ・独自のまちあるき企画として年2回実施するとともに、所要時間に合わせたコース造成が確立されている。

《計画表》

事業名	関係者との用務連携体制の濃い施設
概念	幅広いネットワークを活用した用務連携体制の構築
中長期将来像	・市内外の防災、商業、観光に関連する多くの団体（協議会）等と情報交換や業務連携ができています。
実施目標	・情報提供量の拡充と発信する情報の質の向上。 ・イベント等における協力及び連携体制の確立。
ターゲット	市内外の防災、商業、観光に関連する多くの団体（協議会）等 ※R2年度までの実績 （一社）大船渡地域戦略・みなとオアシスおおふなと運営協議会・大船渡町内商店連絡会議・その他、市及び会議所等が事務局を有する各実行委員会

		現状の把握	既存及び新規関係団体との連携強化				
【STEP1】	いつから	R3.4月	R3.4月				
	だれが	職員	職員				
	何を	情報交換や業務連携している団体等の把握及び連携可能な団体等の抽出。	協議会等への継続参加と情報共有 情報交換や業務連携していない団体との協議				
	いつまで	R3.5月	R4				
	どうなる	連携が不足している分野等の認識	防災、商業、観光の連携強化と新規団体との連携拡充				
	到達点（中間）	-	-				
	評価者	-	-				
【STEP2】	だれが	職員	職員				
	何を	PDCAサイクル （随時）	PDCAサイクル （随時）				
	いつまで						
	どうなる	防災、商業、観光に深く精通し、利用者への情報提供量の拡充と質の向上が図られる。	各種イベント等への協力及び連携体制等が確立されている。				
	到達点						
	評価者						

《ロードマップ》

関係者との用務連携体制の濃い施設		R3				R4				R5				R6				R7				到達点			
施策	だれがやるか	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q				
現状の把握	職員		情報交換や業務連携している団体等の把握及び連携可能な団体等の抽出	PDCAサイクル（随時） マニュアルの見直し等																		<p>【中間】 R3.5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携が不足している分野等の認識 <p>【最終】 継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災、商業、観光に深く精通し、利用者への情報提供量の拡充と質の向上が図られる。 			
既存及び新規関係団体との連携強化	職員		協議会等への継続参加と情報共有 情報交換や業務連携していない団体との協議				PDCAサイクル（随時）																		<p>【中間】 R4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災、商業、観光の連携強化と新規団体との連携拡充 <p>【最終】 継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種イベント等への協力及び連携体制等が確立されている。

《達成状況》

関係者との用務連携体制の濃い施設		R4	R5	R6	R7	到達点
施策	だれがやるか					
現状の把握	職員	大船渡商店街及び気仙丸利活用に係るWGへの継続参加	大船渡商店街及び気仙丸利活用に係るWG等への参加 大船渡をアートで飾るプロジェクト実行委への新規参加			<p>【中間】 R3.5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携が不足している分野等の認識 <p>【最終】 継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災、商業、観光に深く精通し、利用者への情報提供量の拡充と質の向上が図られる。
既存及び新規関係団体との連携強化	職員	大船渡駅前周辺で開催される市産業まつり、防潮堤アートに係る会議等への新規参加	大船渡駅前周辺で開催される市産業まつり実行委への継続参加 大船渡をアートで飾るプロジェクト実行委への新規参加			<p>【中間】 R4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災、商業、観光の連携強化と新規団体との連携拡充 <p>【最終】 継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種イベント等への協力及び連携体制等が確立されている。

《計画表》

事業名	市民交流や地域づくりの場の創出施設
概念	多世代の交流・憩い、活動、情報発信の場の創出
中長期将来像	・市民交流や地域づくりの場の機会が増える。
実施目標	・おおふなぼーとの貸館稼働率50%（年間）
ターゲット	全ての利用者

		現状の把握	施設の利用促進	施設のPR			
【STEP1】	いつから	R3.4月	R3.4月	R3.4月			
	だれが	職員、ころりん	職員、ころりん	職員、ころりん			
	何を	アンケート結果を基に、利用者ニーズの把握とともに改善を図る。	各種市民交流事業の展開	施設の存在、役割、イベント等の情報発信。(HP、新聞、広報等)			
	いつまで	R4.3月	R5	R5			
	どうなる	利用者のニーズに応じてくれる施設と認識され、居心地の良い施設作りの基盤整備が図られる。	主に市民が集まりやすい施設と認識され利用促進が図られる。	おおふなぼーとの認知度アップとともに、施設に対する興味が高まり、HPの閲覧数が増加する。			
	到達点(中間)	改善情報の公開	年間50事業	年間発信数500件			
	評価者	職員、ころりん	職員、ころりん	市、職員			
【STEP2】	だれが	職員、ころりん	職員、ころりん	職員、ころりん			
	何を	アンケート調査項目及び各種事業内容の見直し等	アンケート調査項目及び各種事業内容の見直し等	アンケート調査項目及び各種事業内容の見直し等			
	いつまで	R7	R7	R7			
	どうなる	・居心地が良く、市民が集まりやすい施設となっている。(アンケート調査による満足度80%以上)	・おおふなぼーとの認知度が向上し、貸館稼働率が50%を超える。	・質の高い情報発信が行われ、ホームページPV数が年間25,000件を超える。			
	到達点	アンケート調査による満足度80%以上	貸館稼働率が50%を超える	ホームページPV数が年間25,000件を超える			
		評価者	アンケート回答者(施設利用者)	職員、ころりん	職員、ころりん		

《ロードマップ》

市民交流や地域づくりの場の創出施設		R3				R4				R5				R6				R7				到達点
施策	だれがやるか	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
現状の把握	職員	アンケート結果をもとに、利用者ニーズの把握とともに改善を図る												アンケート調査項目及び各種事業内容の見直し等				<p>【中間】R4.3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズに応じてくれる施設と認識され、居心地の良い施設作りの基盤整備が図られる。 <p>【最終】R7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居心地が良く、市民が集まりやすい施設となっている。（アンケート調査による満足度80%以上） 				
施設の利用促進	職員 おはなしころりん	各種市民交流事業の展開																<p>【中間】R5</p> <p>主に市民が集まりやすい施設と認識され利用促進が図られる。</p> <p>【最終】R7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおふなぼーとの認知度が向上し、貸館稼働率が50%を超える。 				
施設のPR	職員 おはなしころりん	施設の存在、役割、イベント等の情報発信（HP、新聞、広報等）																<p>【中間】R5</p> <p>おおふなぼーとの認知度アップとともに、施設に対する興味が高まり、HPの閲覧数が増加する。</p> <p>【最終】R7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質の高い情報発信が行われ、ホームページPV数が年間25,000件を超える。 				

《達成状況》

市民交流や地域づくりの場の創出施設		R4	R5	R6	R7	到達点
施策	だれがやるか					
現状の把握	職員	アンケート実施に伴うニーズの把握及び意見に対する改善	アンケート実施に伴うニーズの把握(12月予定)及び意見に対する改善(11月公表)			<p>【中間】 R4.3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズに応えてくれる施設と認識され、居心地の良い施設作りの基盤整備が図られる。 <p>【最終】 R7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居心地が良く、市民が集まりやすい施設となっている。(アンケート調査による満足度80%以上)
施設の利用促進	職員 おはなしころりん	自主事業及びおはなしころりと連携し、年間105事業の実施。	自主事業及びおはなしころりと連携し、年間45事業の実施。(10月末時点)			<p>【中間】 R5</p> <p>主に市民が集まりやすい施設と認識され利用促進が図られる。</p> <p>【最終】 R7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおふなぼーとの認知度が向上し、貸館稼働率が50%を超える。
施設のPR	職員 おはなしころりん	HP、SNS等を活用した施設の役割、イベント情報発信	HP、SNS等を活用した施設の役割、イベント情報発信の継続			<p>【中間】 R5</p> <p>おおふなぼーとの認知度アップとともに、施設に対する興味が高まり、HPの閲覧数が増加する。</p> <p>【最終】 R7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質の高い情報発信が行われ、ホームページPV数が年間25,000件を超える。